

大学生の ICT 活用状況の実態調査 -学習支援システム設計に関する一考察-

The Investigation on ICT Literacy of University Students -The Consideration of Design for Learning Support System-

大崎理乃¹Ayano OHSAKI^{*1},^{*1}鳥取大学工学部ものづくり教育実践センター^{*1} Innovation Center for Engineering Education, Tottori University

Email: ohsaki@icee.tottori-u.ac.jp

あらまし：鳥取大学ではものづくり教育の体系化と教育効果の評価に関する実践研究を行っており、PBL 用学習支援システムの導入・運用を検討している。しかしながら、学生の ICT 活用状況の把握が十分ではなく、学習支援システムの設計・運用に関して注意すべき点並びに指導すべき点が明確になっていない。本稿では、PBL 用学習支援システムの設計時に注意すべき点と運用上必要な指導を明らかにするため、ものづくり教育の受講生を対象に ICT 活用状況を中心とした調査を行った結果、①コミュニケーション支援ツールの利用経験が少なく、システム設計・運用時に学生の実態を考慮する必要性、並びに②ICT 活用時のリスク対策指導の必要性が示唆されたことを報告する。

キーワード：ICT 活用, PBL, ものづくり教育, 学習支援システム, 授業設計

1. はじめに

鳥取大学では、体系的なものづくり PBL に関する実践研究を行っており、PBL 用学習支援システムを設計中である。しかし、授業にて学生の活動を観察すると、オフィス系ソフトを使用した文字入力においても戸惑う姿が多く見受けられる。

他方では、近年様々な ICT ツールが実用化され、日常における情報収集活動だけでなく、就職活動や災害時の情報交換にも利用されるなど、我々の生活とこれらのツールは密接に関わっている。毎日コミュニケーションズが実施した、大学3年生のライフスタイルに関する調査⁽¹⁾によると、2013年度卒業予定生はスマートフォンの保有率が59.3%、SNSの利用率が85.5%となっている。しかし、当該調査は就職活動実施中の大学3年生を対象としているため、参考資料が示した状況が全学を対象としたものづくり教育の受講生に適用されない可能性がある。

そこで、PBL 教育用学習支援システムの設計時に注意すべき点と運用に際して必要な指導を明らかにするため、ものづくり教育の受講生を対象に ICT 活用状況を中心としたアンケート調査を行った。

2. 調査方法と調査対象

調査は、ものづくり教育実践センターの開講する授業の受講生150名を対象に行った。なお、アンケートを実施した授業は全て選択科目である。表1と表2に示す通り、回答学生は男性が70%、工学部生が67%と性別並びに学部により偏りがある。本調査はものづくり教育の受講生を対象としているため、学生の属性に関する偏りは、ものづくり教育を選択する学生の傾向として捉える事とした。

表1 学生の属性データ①

性別	比率
男	70%
女	21%
無回答	9%

表2 学生の属性データ②

学部	比率	学年	比率
工学部	67%	1年	40%
農学部	12%	2年	15%
地域学部	14%	3年	29%
医学部	1%	4年	10%
無回答	6%	無回答	6%

3. 調査項目

アンケート調査は1. ICT 活用状況、2. 情報通信機器の使用状況、3. ICT 活用時のリスク対策状況、の3つについて行った。回答の選択肢はそれぞれ5段階であり、その基準は表3の通りである。

表3 アンケート回答項目

	ICT 活用状況	機器の使用状況	リスク対策状況
5	使いこなしている	自分専用のものを持ち、日常的に使っている	リスクを十分把握し、対策している
4	使っている	自分専用のものがあるが、使い方が分からない	リスクを十分把握している
3	使ったことはある	共用のものを日常的に使っている	リスクを把握し、とりあえず対策している
2	使った事はないが、どんな物か知っている	共用のものがある	よくわからない対策していない
1	知らない	持っていない	聞いた事がない

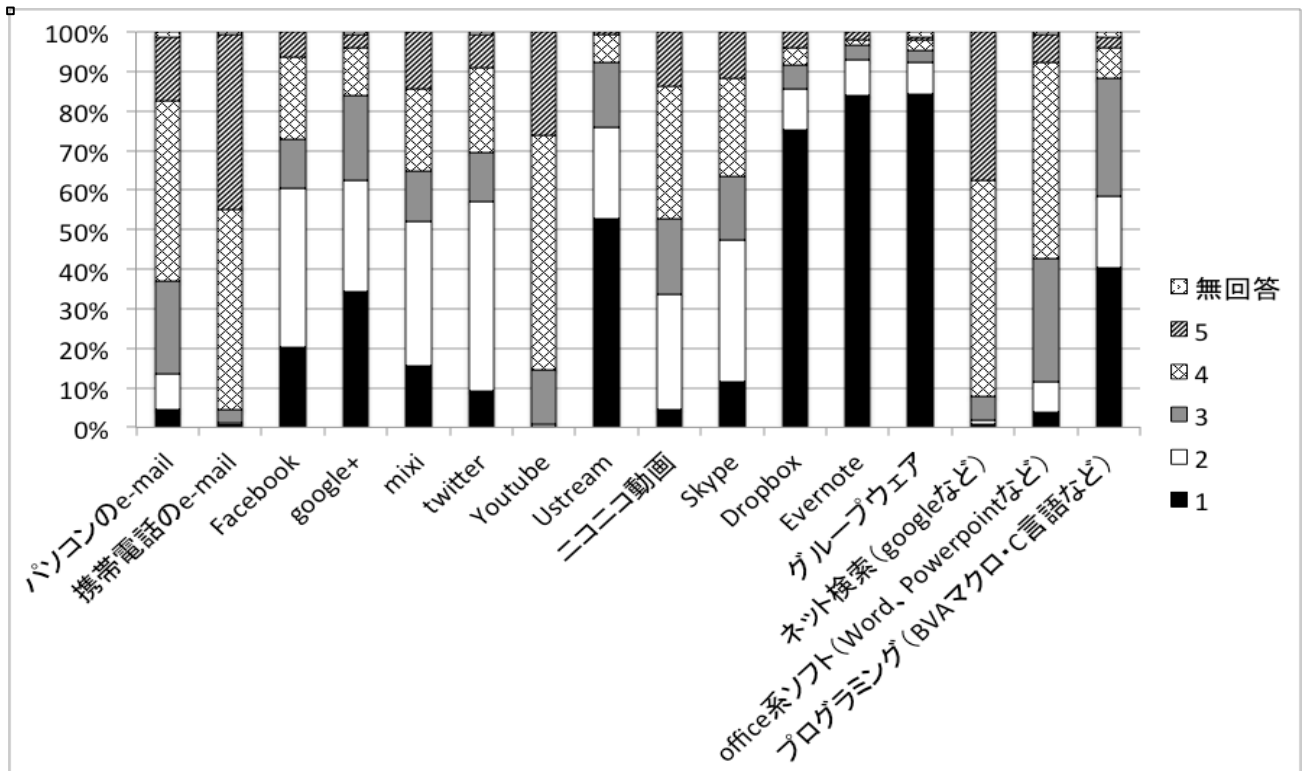


図1 ICT活用状況アンケート結果

4. 調査結果

4.1 ICT活用状況

図1はICT活用状況アンケート結果である。提示したツールの内、SNS及びDropbox、グループウェアについては回答者の50%以上が「使った事がない」もしくは「知らない」と回答した。

4.2 機器使用状況

機器使用状況を図2に示す。鳥取大学生は、原則一人1台のパソコンを必携とされているためWindowsパソコンの保有率は96%である。また、スマートフォンの保有率は40%であった。

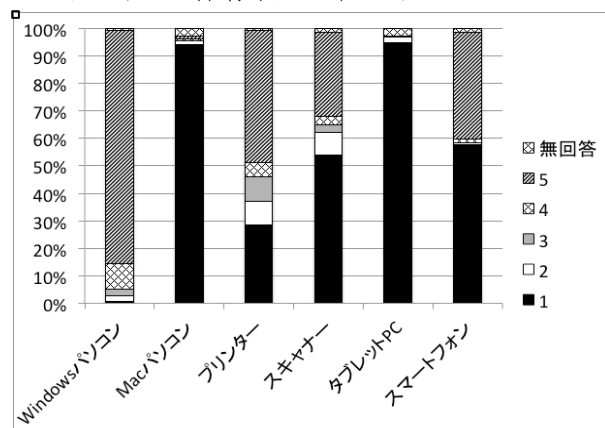


図2 機器使用状況

4.3 リスク対策状況

リスクに関する調査では、図3に示す通り、60%以上の学生が、各種リスクに対して何らかの対策を行っていることが明らかになった。しかし、「とりあ

えず対策」または「何も対策していない」と回答した学生も多く、学習支援システムの運用時には指導が必要と考えられる。

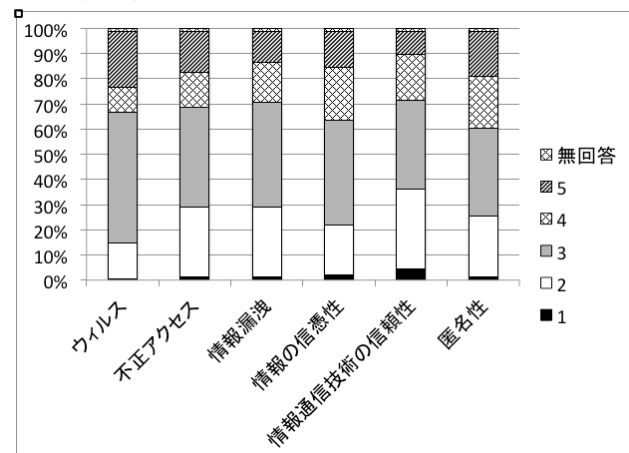


図3 リスクへの対策状況

5. まとめ

アンケート調査の結果、対象大学生はSNSやグループウェアのようなコミュニケーションを促進するツールの利用経験が少なく、システムの設計・運用時に考慮する必要があると考えられる。また、ICT活用時のリスク対策状況も十分ではないため、システム運用時には指導が必要となることが示唆された。

参考文献

- (1) 毎日コミュニケーションズ: “2013年卒 マイコミ大学生のライフスタイル調査”, 2012.6.7.確認, <http://saponet.mynavi.jp/mynavieng/20120124.html>, (2012)